報告資料5

様式第2号（第6条関係）

諏訪地域障がい福祉自立支援協議会

日中サービス支援型共同生活援助事業所の報告・評価シート

設置主体	名　称	ソーシャルインクルー株式会社	報告日	令和　4年 4月　7日
	所在地	東京都品川区南大井6-25-3 いちご大森ビル2F☒		
事業所	名　称	ソーシャルインクルー岡谷若宮	評価日	令和　4年 4月　7日
	所在地	長野県岡谷市若宮1丁目3番28号		

事業所の運営方針	(運営規程の抜粋等を記入) 利用者が自立を目指し、地域において協同して日常生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、共同生活住居において入浴、排せつ又は食事の介護、相談そのほかの日常生活上の援助を適切に行うものとする。
事業内容	事業所開設日　令和３年６月１日 利用者定員　２０名(短期入所定員　２名)　　職員数２３名(常勤換算後の人数１６名)

項目	評価の視点	項目 具体的な内容	【自立支援協議会記入欄】 要望・助言・評価
1 地域に開かれた運営	実習生やボランティア・見学者等を受け入れているか	【受入れ人数】 延べ受入れ人数：0名（実人数） 【受け入れ事例】 令和3年度はコロナ禍の緊急事態宣言等もあり控えていました。 令和４年度に向けて徐々に落ち着いてきた段階から積極的な受け入れを計画したいと思います。（東高校生などの実習生等）同時に地域との関わりを繋げられる計画を実施したい。	【実施なし】 ・コロナの影響もあり、広域の応募や企画は難しいが、近隣の高校生ボランディアの受入れや、区民への見学会等、ポイントを絞った形で計画していただきたい。 ・区長や役員さんと繋がるきっかけ作りなどを考えてみてはどうか。
	地域住民との交流の機会が確保されているか	【交流機会の事例】 実施なし。令和４年度は、まずは近隣の方々にGHを理解してもらえるような取り組みを行いたい。その後、地域の活動等で参加できそうなものがあれば、積極的に参加し交流を深めていきたい。そのために、区長さんなどに知ってもらうことから始めていきたい。 さらに、近隣店舗の方々に入居者様のことを知ってもらえるよう、丁寧な対応や工夫を重ね、理解してもらえるような取組みを継続していく。	【実施なし】 ・暮らしの中では、お互いに顔の見える関係づくりが重要となるため、近隣の店舗や会社等への理解を得ることや、住民との交流の場を計画してほしい。
2 短期入所の併設	地域で生活する障害者を積極的に受け入れているか	【利用者数】 男性4名 岡谷市4名・諏訪市0名 女性4名 岡谷市1名・諏訪市3名	・短期入所は障害に関わらず、積極的な受け入れを行っている。 ・スタッフ全員の統一した対応が課題であるとのこと。安心して対応できるよう、事前の情報共有や支援の検討の場を作っていただきたい。

	緊急的利用のニーズに対応しているか	【緊急受入人数】 0名 【緊急受入れ事例】 初めてのご利用者様に対する緊急利用は職員体制が安定するまでは厳しいと考えている。	【実施なし】 職員体制が安定したのちに、緊急的利用の受入れを開始するとのこと。
3 支援の実施	重度化・高齢化等のニーズに対応しているか	【対応事例】 施設をバリアフリーの対応にしており、車椅子での生活でも余裕をもって過ごせるように環境整備をしている。 また、施設内で歩行練習を行いたいといった要望を受け、歩く練習の見守りを行う観点から、廊下に手すりを設置した。 訪問リハやリハ通院のない方は、職員立ち合いのもと、歩行訓練や立ち上がり訓練をしている。また、自主的に体重増加対策や、減量目的で歩いている方もおられる。 入居者様のうち、訪問リハ利用者は２名。	・開所1年に満たないため、入居時の支援の延長線上で対応可能。 ・廊下の手すりを使い、職員が付き添いリハビリをしている方も数名。Dr.から「足は衰えていない。引き続き、GHで練習して」と言われ、効果も感じられているとの事。 ・所内のリハビリは、個別支援計画に記載している（効果をモニタリングしている）。
	利用者が充実した地域生活を送るため、外出や余暇活動等の支援に努めているか	日中ホームで過ごされているご利用者様は、現在、男性が４～７名。女性は４名おられる。通所先の見学や体験をした方もおられるが、通所はされていない。 ホームでの日中活動は、近隣に買い物に行ったり、TVを見たり、塗り絵をしたり、おしゃべりをしたりという状況。コロナの状況を判断しながら、暖かくなったら散歩などに行かれたらと検討している。	・日中、GH内で過ごす方が8名～11名。車での外出支援も行っているが、塗り絵などの単純作業は飽きてしまうため、ボランティア等の協力を得て、活動を充実したい意向。積極的に取り組んでいただきたい。
3 支援の実施	支援の質の確保に努めているか（資格取得、研修等）	【取得した資格、参加した研修名等】 令和３年度は、人材育成を最大の課題と捉え、開所当初から月に1回は、研修会を開催する目標だったが、結果的に十分な回数の研修が実施できなかったことに加え、スタッフに対し、研修への参加を徹底することができなかった。 令和４年度は、適切な支援の方法が端的にまとめられている、動画を活用した研修を行うなど、支援の質に効果が出るような研修を実施したい。また、年に２回「虐待防止研修」や「権利擁護研修」を座学形式で必須研修と位置づけ、実施しているが継続したい。これからは、OJTや他施設への研修などを通じ、様々な場面における対応方法を一人一人が身につけられるよう、研修の内容についても検討したい。 令和３年３月には、管理者が強度行動障害研修を受講。資格を取得したことから、伝達研修を行いたい。	・スタッフ20名ほどの人材育成が喫緊の課題とのこと。組織として、所内研修の場を整える必要がある。 ・講師の派遣も出来るので、活用いただきながら権利擁護、虐待防止研修も定期的に行っていただきたい。また所内OJTや他施設への研修などを検討してはどうか。
	体験的利用のニーズに対応しているか	【体験利用人数】　　0名 【体験利用の事例】 入所を前提とした体験的利用は、受入れている。入所ニーズの遠い、将来に向けた体験的利用については、GHでの生活を実感していただくため、前向きに検討したい。	・入居を前提としない、将来のための体験的利用は、短期入所で対応している。

	自己決定の支援に努めているか	【自己決定支援の対応事例】 職員が決めてしまうようなことがないように注意しているが、誘導になってしまうこともあると感じている。 ご本人が、小さな選択を積み重ねることで、自ら決められるように支援したい。 「本人には決められない。」と、職員が勝手な判断をするようなことがあれば、それは「権利侵害」にあたるということを、全員が徹底して認識していないといけないが、実践できていない。	・「意思決定支援」についての職員研修の必要性を認めた。 ・入居者の定期的なアセスメントを実施し、職員間で支援の検証・共有を行っていくことも有効である。
4 その他			
5 協議会からの要望、助言への対応（2回目以降）	要望、助言に誠実に対応しているか	【要望・助言の内容及びその対応】	

評価者　岡谷市社会福祉課障がい福祉担当　高山　理恵

基幹相談支援センター　オアシス　鈴木　美和子

主任相談支援専門員　精明学園　伊藤　英次

報告資料5

様式第2号（第6条関係）

諏訪地域障がい福祉自立支援協議会

日中サービス支援型共同生活援助事業所の報告・評価シート

設置主体	名　称	株式会社　グローブ	報告日	令和　4　年 4　月　22　日
	所在地	諏訪市中洲福島5689-2　相沢ビル1F		
事業所	名　称	グローブホーム	評価日	令和　4　年 5　月　2日
	所在地	諏訪市四賀2120-1　グランツ信州		

事業所の運営方針	(運営規程の抜粋等を記入) 障がい者の自立を目指し、地域において共同して日常生活を営むことができるよう、身体及び精神、おかれている環境に応じて相談その他日常生活上の援助が効果的に行うものとする。
事業内容	事業所開設日 R3年10月1日 利用者定員 17 名(短期入所定員 1 名)　　職員数　14　名(常勤換算後の人数　名)

項目	評価の視点	項目 具体的な内容	【自立支援協議会記入欄】 要望・助言・評価
1 地域に開かれた運営	実習生やボランティア・見学者等を受け入れているか	【受入れ人数】 延べ受入れ人数：30　名（実人数） 実習生3名 見学者27名　ボランティアなし 【受け入れ事例】 実習生・・・障がいのある方への支援を仕事として行いたい他事業所の方々が実習された。日勤、朝勤、夕勤、夜勤などあらゆる時間で実習され、支援技術だけでなく利用者とのコミュニケーション技術も伝えた。 見学者・・・利用をしたいという方はもとより、親元から離れていずれは暮らしたい方やGHを知りたい方、親の会の方々など様々な方のニーズにお答えしながら見学をしていただく。	地域の事業所との連携もあり、お互いの技術支援等にも積極的に取り組まれている。 多くの見学者を受け入れており、丁寧に対応している。
	地域住民との交流の機会が確保されているか	コロナ禍ということもあり、地域の方との交流はありません。たまに声をかけあいさつするくらいでした。	コロナ禍で地域の方との交流は少ない状況ではあるが、入居者が充実した地域生活が送れるよう、今後は地域での行事などに参加するなど交流の機会を設けて頂きたい。 また、災害対策としても日ごろから消防団や近隣住民との連携を図る事が重要であり、避難等に協力してもらえるような体制づくりをお願いしたい。

2 短期入所の併設	地域で生活する障害者を積極的に受け入れているか	【利用者数】24名 長い方で1週間、短い方で2泊3日。それぞれの方に応じた日数で利用していただく。 コロナで制限もあったが、それぞれ気を付けながら生活していただきました。	空き状況などをみながら積極的に受けている。
	緊急的利用のニーズに対応しているか	【緊急受入人数】 2名 【緊急受入れ事例】 相談員からの相談を受け、自宅にいる事ができない方、御家族がお世話できない方を受け入れました。 お住まいの地域にグループホーム（緊急を受け入れる）が無い方など必要に応じて対応しています。	緊急対応の受け入れもして頂いており、その方に合わせた職員体制や対応に務めている。
3 支援の実施	重度化・高齢化等のニーズに対応しているか	【対応事例】 居室環境を改善しながらニーズに対応しています。 手すり取付 ベッド テーブル　　など	20代の若い方の入居が多いが、重度化が進んでおり、食事などその方に合わせた工夫をしている。引き続き栄養面も意識しながら取り組んでいただきたい。
	利用者が充実した地域生活を送るため、外出や余暇活動等の支援に努めているか	利用者の聞き取りをしながら、外出計画を行ったり、同行して余暇活動をしています。 ・買い物支援 ・美容院への同行	日中のサービスが手厚くなり、利用者のニーズに合わせた対応をしている。

3 支援の実施	支援の質の確保に努めているか（資格取得、研修等）	【取得した資格、参加した研修名等】 このような時期（コロナ）で研修や資格取得のために外部へ出ることはなかったが、事業所内でミーティングをする機会を多く設け研修等を行った。	緊急ショートや体験される方が多い中、職員同士の支援の仕方などを共有しながら連携が取れている。 引き続き自立支援協議会との連携を強くし研修等の参加をお願いしたい。
	体験的利用のニーズに対応しているか	【体験利用人数】　10名 【体験利用の事例】 今までグループホームを利用した事が全くない方でご家族との生活がうまくいっていないため、静かな環境での生活を望まれて利用された。 職員が24時間いるので安心されていた。 体験のあと短期入所で使っていきたいという希望があり利用されている。	様々なニーズに合わせた方の受け入れをしている
	自己決定の支援に努めているか	利用者の今の気持ち、望んでいることを聞き取り日常の中で支援として取り入れている。 ・外出同行・・・理容、美容院、引っ越し手伝い、買い物、DVD、CDレンタルショップなど ・作業所（日中）の選択する際に相談にのる	限られた職員体制の中、個々に応じた対応をしている。 グループホームだけで抱え込む事の無いように、相談支援専門員とも日々連携を取りながら、入居者の意向を聞く機会を引き続き設ける事で支援に繋げて頂きたい。
4 その他		特になし	「日中サービス支援型共同生活援助」は、当圏域では新しいサービス形態となるので、今後も自立支援協議会と連携し、地域に開かれ利用者の個々の状況に応じたサービスの確保に努めていただきたい。

5 協議会からの要望、助言への対応（2回目以降）	要望、助言に誠実に対応しているか	【要望・助言の内容及びその対応】 事業所見学の要望にはスケジュールを合わせて対応している。	（2回目以降のため記載なし）

評価者　事業所所在地　市町村　諏訪市社会福祉課　植松　朋生

基幹相談支援センター　オアシス　大澤　英恵

主任相談支援専門員　この街支援センター　井上　純一